



うちおろしじょうあと  
**打下城跡**

城主は、洞海(乙女ヶ池)周辺を拠点として琵琶湖の制海権の一部を握っていたと考えられる林与次左衛門員清であると伝えられています。『信長公記』によると、元龜4年(1573)に信長が大船で高島郡を攻撃した際は、当時、信長の支配下にあった員清の本拠地が陣所となりました。遺構は、南と北のブロックに大きく区分され、南の曲輪が主郭であると考えられます。



**要チェック**  
戦国山城の石積み

北の曲輪は高い土塁によって囲まれ、土塁の一部には、市内の山城では珍しく石積みが残されています。



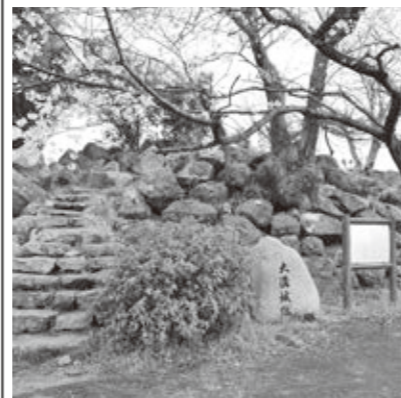
にしやまじょうあと  
**西山城跡**

中世以降、朽木野尻に居館を構えて朽木一帯を支配した朽木氏の詰めの城とされています。山上の最高所に主郭が置かれ、一段低い位置の南北に曲輪が配されたほか、虎口(入り口)から主郭に至る間には、敵の侵入を阻むための柵形が設けられました。また、北曲輪の東端には、飲用水を溜めたと思われる溜柵が良好な状態で残っています。



**要チェック**  
戦国時代の連絡手段

主郭の北側には高さ約3mにおよぶ馬蹄形の土塁で囲まれた空間があり、のろし台ではないかと推定されています。



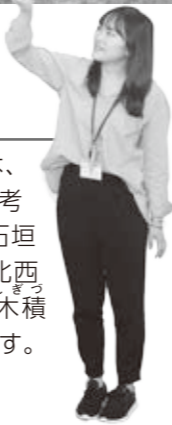
おとみせじょうあと  
**大溝城跡**  
(市指定史跡)

天正6年(1578)に織田信長の甥にあたる織田信澄が、義父である明智光秀に縄張り(設計)を任せて築城したと伝わります。江戸時代の古絵図などから、隣接する乙女ヶ池を外濠として巧みに利用した水城であったことがわかっています。近年の発掘調査では、本丸を囲む石垣や本丸と二ノ丸をつなぐ土橋の存在が確認され、築城当時の姿が明らかになりつつあります。



**要チェック**  
天守台の石垣

本丸の一角には、築城当時のものと考えられる天守台の石垣が残っています。北西隅では天正期の算木積み(さんぎづみ)の石垣が見られます。



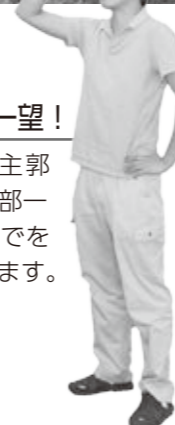
しみずやまじょうかんあと  
**清水山城館跡**  
(国指定史跡)

西佐々木一族の惣領家・佐々木越中氏の居城と伝えられています。山頂の主郭を中心として、北西・南西・南東の三方の尾根上に曲輪が配され、主郭南面と北西尾根には畝状空堀群が築かれています。これは、敵の侵入や移動を防ぐためのもので、戦闘に備えた堅固な守りの山城であったことがうかがわれます。主郭の発掘調査では礎石建物跡が見つかっています。



**要チェック**  
高島市南部一帯が一望!

標高約210mの主郭からは、高島市の南部一帯と琵琶湖や対岸までを一望することができます。



たなかじょうあと  
**田中城跡**

近江源氏・佐々木氏の一族で、田中郷を本拠としていた田中氏によって築かれたと考えられています。戦国時代には、織田信長が越前の朝倉氏攻めの途中に宿泊したと伝わるほか、近年確認された史料には、信長に仕える前の明智光秀がこの城に籠城していたことが記されていました。若き日の光秀の活躍を伝える城跡としても注目されています。



**要チェック**  
城跡にお寺がある!?

田中城がある山には、もともと天台山岳寺院の松蓋寺がありました。田中城はその境内の一部を山城に転用して造られたといわれています。



関文化財課 ☎(25) 85559

新資料の発見や戦国武将が主人公のドラマが放送されていることで、最近、特に注目が集まる高島市の戦国の城跡。その多くに、曲輪や堀跡、土塁などの見事な遺構が残るとともに、築城から現在に至るさまざまな歴史、伝承などが残されています。中には、誰もが知っているあの有名な戦国武将に関係するお城も…。

特集2

**高島・戦国の城跡紹介**

たやじょうあと  
**田屋城跡**

マキノ町森西集落の西側の「城山」と呼ばれる丘陵地に築かれた山城。山麓に居館を構えていた田屋氏の城と伝えられています。



戦国時代の田屋氏は、湖北の浅井氏に仕え、浅井氏の勢力が高島郡に進出するのに大きな役割を果たしたとされています。しかし、元龜年間（1570～72）になると織田氏と争い、天正元年（1573）の小谷城落城と相前後して落城したと考えられています。

**戦国の山城、ココがおもしろい！**

市内には 80 を超える数の城跡が残されています。その代表的なものを前ページで紹介しましたが、戦国の城跡には、建物や構造物がほとんど残っていないため、お城があった場所だと分かりにくいのが難点です。

しかし、城跡ではさまざまな場所で戦国のお城ならではの特徴や工夫点を見つけることができます。ここでは、マキノ町森西集落の背後の丘陵にあった田屋城の遺構を例に、戦国の山城の見どころをご紹介します。

1  
ココ見て

**たてぼり  
豎堀**



山の斜面に対して縦方向につくった空堀のこと。敵が斜面を自由に横移動することを防ぎます。

2  
ココ見て

**どるい  
土塁**



土を盛ってつき固めた土手のことです。田屋城には、2m を越える土塁に囲まれた曲輪が複数残っています。

3  
ココ見て

**どげし  
土橋**



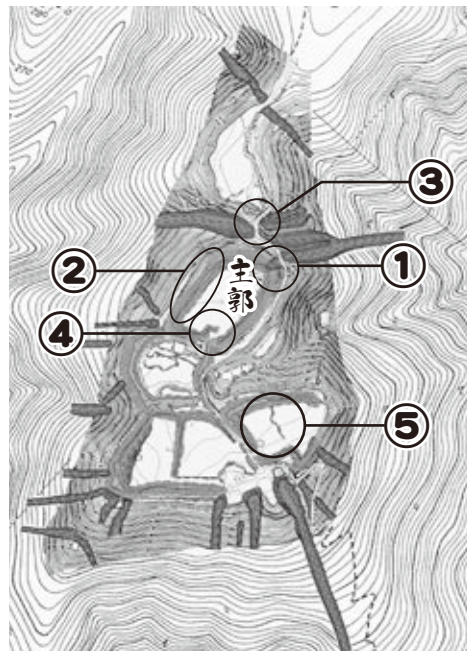
城の内外、曲輪と曲輪を結ぶ土の橋。堀の通路部分を掘り残して造られたもの。

4  
ココ見て

**ますがたこぐち  
柵形虎口**



虎口とは曲輪の入り口のことです。そこに土塁を屈曲させた四角い空間をつくり、敵を誘い込むようにした場所を柵形虎口といいます。田屋城には、主郭の入り口に柵形虎口が造られています。



5  
ココ見て

**くるわ  
曲輪**



山の斜面を削り、削った土を盛ることによって平らな面を作り、その周囲を土塁で囲んで、侵入しにくくした平場のことをいいます。後の時代には、本丸・二ノ丸などと呼ばれました。